

# デリシャス系リンゴの栽培

リンゴ試験場 高橋正治

ここ数年来国民所得の向上と共に、消費の傾向も量より質にと変化いたして来ました。このことは食生活にも影響を与えておりますが、リンゴの消費の傾向も同様です。

国光、紅玉の時代は既に去りつつあり、デリシャス系の需要が急激に増大し、また晩生の系統についても、恵や東北七号(ふじ)に移りつつありますことはこの事実を物語っております、新しく苗木を植えつけられる方々も七・八割迄デリシャス系を新植している状態です。

さてデリシャス系と一口には申しますが、普通デリシャス、スタークリンギングデリシャス、リチャードデリシャスの三品種が一般にデリシャス系といわれており、特に最近の傾向としては着色の良いスタークリンギングが消費者の間にも人気が非常に高い傾向にあります。スタークリンギングの栽培にあたっては種々問題点があり、これらの点について、青森県リンゴ試験場の試験結果等を中心的に、デリシャス系リンゴ栽培の問題点について説明いたします。

## 一 若木は早期に結果するように仕立てること

デリシャス系リンゴは、他のゴールデンデリシャス、紅玉、国光、旭に比較して結果年齢に達するのが大変おそい傾向にあり

ます。例えばゴールデン、レッドゴールド等は三・四年で開花結実いたしますが、デリシャス系では植付後七年にならなければ、開花結実いたしません。特に若木の育成にあたっては、主枝候補枝の発生角度が狭い程(立ち枝)晩成りの傾向があり、又枝の強い切り返しはこの傾向を更に一層強めますので、枝の強い切り返しはできるだけ避けて下さい。又デリシャスの一つの特性は、結実すると共に成り枝の下垂し易いということです。つまり若木時代は余り切り返し等強い剪定を行なわず、軽く枝を払う程度で、早く木を大きくなる方が得意です。又苗木をいきなり定植せず、二五年位仮植場におき生育してから定植すると、結果年令を早めることができます。

## 二 隔年結果を防ぐには

デリシャスは隔年結果性が甚しく年により非常に波がありますが、數葉や早期の摘果は隔年結果の防止に役立ちます。

## 三 実の止りを確実にすること

デリシャス系のリンゴは、結果力が非常に弱いことで、例えば自然放任した場合の結果状態を見ると、ゴールデンデリシャスの三割程度、又国光に比較しても五割程度で、特に自家結果率は僅かに〇・四%で、

紅玉の一〇分の一、国光の一四分の一とい

われ、これが結果率を大幅に引下げている大きな原因の一つです。このためには、人工授粉の励行と共に、单植はさけ、祝、旭、紅玉等の授粉樹を適当に混植することです。

## 四 早期落果を防止すること

早期落果の原因には、色々と考えられますが、特に六月の異常高温が一つの原因と言われておりますが、この異常気温の出現する頃には、出来るだけ葉の同化作用を妨げるような葉剤散布をさるべきで、例えばウドンコ病の防止には、水和硫黄剤をさけてカラセイン等の影響の無い葉剤を散布することも一つの方法です。

## 五 粗皮病の防止

古い時代はデリシャスはアブラ虫が非常に好んだ品種ですが、現在では大改良の除剤が出ており、簡単に防除出来るようになりましたが、粗皮病の発生がここ数年来デリシャス系リンゴ栽培の大きな障害になって来ました。この発生原因については、目下研究調査中ですが、まだはつきりとしたことは言えませんが、一応現段階にて判明したところを説明いたしますと、次のようにになります。

(+) 発生した園の多くは強酸性であること。

(+) 表土が浅く、下層土が粘土質で排水の悪いところ。

(+) 表土が浅く、下層が砂礫質で乾湿の差が激しいところ。

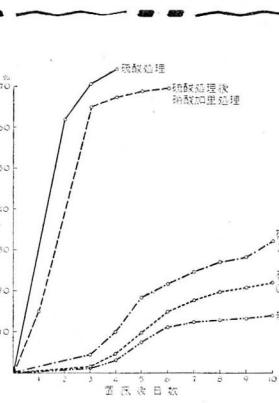
(+) 砧木関係では三葉砧の発生が多く丸葉砧では発生がすくない。

(+) 若木を移植した時。

については、図の通り、発芽に関しては、統計的にも全く有意差が見られない。故に無処理でも徐々に発芽して発芽率五〇%近くになるが、発芽時間が長く、処理②によつて、硬粒種子が著しく発芽促進されるという結論を得てある。

今後の問題としては、大量種子を処理する場合、濃硫酸浸漬後水洗の際の発熱、危険、更に経費等があげられよう。

硫酸処理の時間と発芽率の関係	
処理	発芽率%
無処理	2.0
硫酸1分処理	6.0
同 3分同	23.6
同 4分同	73.9
同 9分同	66.3



粗皮病の予防法としては大体次のことに注意して栽培すべきです。

その他にも原因と考えられることが二、

あります。

粗皮病の発生は排水不良地では暗渠等を入れて排水を行い、排水不良地では暗渠等を入れて排水を行な

良くすること。

(回) 土壤の通気を良くすること、下層土のかたいところ等では天地返しをし、又粗大有機物を投入し土質の改良をはかること。

(四) 剪定、摘果及び病虫害の適切な防除、

適切なる肥培管理の実施

現在では以上の事項に注意して栽培する

六 斑点性落葉病の防止

最近葉や果実に斑点性落葉病という病気の発生が大変多くなって来ました。この病気は、前年罹病した葉、果実、枝で病原菌が越冬し、開花期頃より胞子をつくり飛散し、葉、果実、枝を侵し、又胞子を作り伝播し越冬を繰り返します。

防除法としては

(一) 春先地上の落葉を搔き集め焼却するか、地中深く埋めること。

(二) 剪定の際には、不要な発育枝の剪去により越年菌を少なくすること、さらに六月以降においても適宜不要な発育枝を剪去して、病菌伝播の足場をなくすようにとめること。

(三) 発生の多い時には無袋にして、落花二十五日頃位から八月末まで十日毎に六式ボルドー液を丁寧にかけて下さい。

葉の斑点防止のためには、ボルドー液の濃度が高い程その効果は高く、時に六式ボルドー液以上の濃度は、その効果は頭著で落葉も少ない傾向にあります。

七 デリシャスのゴム類似症の防止

この病気は一種の生理障害であって、俗

に「アンコ病」と言われ、デリシャスにだけ見られる貯蔵病害で、普通四月以降迄貯蔵した時に発生が多いが、年によっては二月頃より発生する場合もあり、果肉が内部から崩壊し黒褐色となり腐敗いたします。

この原因については目下研究中ですが、発生の傾向としては、

(一) 採收時期が早い程発生がすくない。  
(二) 実の大きさは七〇～八〇玉のものより四〇～五〇玉の方が発生が多い傾向があります。

(三) 採收後貯蔵温度が四度C

以上外に、採收後の貯蔵温度が四度Cになると発生が多いといわれております。

このため出来るだけ貯蔵は大玉をさけて、七八八〇玉を貯蔵に心掛けるべきです。

以上簡単に説明いたしましたが、デリシャス系のリンゴ、特にスタークリングは今後益々増殖されていく傾向にあります。北海道においても、他の产地に比較して実が良くなり、特に貯蔵力は遙かに大きいので、簡単な貯蔵設備で充分であり、年を越してから品質の良いリンゴを他の产地のリソグより有利に市場に出荷出来ますので、今後新植にはこの点を充分に考慮に入れて取入れるべきと考えます。

(青森県リンゴ試験場・技師)

弊社におきましては、昨年よりデリシャス系リンゴの生産には粗皮病防止のため、三葉砧の使用をやめ、デリシャス、スタークリング、リチャードの三品種は、全部丸葉砧に接木いたしておりますので是非御入用下さい。

計

技術顧問  
千葉農場長

安孫子六郎氏急逝



当雪印種苗株式会社技術顧問、千葉農場長安孫子六郎氏は七月十三日盲腸炎に端を発し、千葉市国立病院にて加療中のところ腹膜炎を併発、七月二十三日十三時四十五分、逝去されました。永年本会員の皆様にはお馴み深い方でありますので、本紙を通じ哀悼の意を表しあらせ申し上げる次第であります。七月二十五日千葉市長沼原町千葉農場に於て、雪印種苗五十嵐専務取締役葬儀委員長のもとに、故郷裡に農場葬をとり行なわれました。

故安孫子六郎氏は、福島県会津藩から成る札幌郡琴似屯田の士安孫子倫彦氏の六男として明治三十九年十一月四日に生れ、札幌商業学校から北海道大学農学部農業実験科へ学ばれ、昭和五年卒業後二十年父と共に農業に従事、次いで北海道十勝拓殖実習場に奉職、開拓青年の教育にあたられ、更に昭和十三年満州国立奉天農業大学に招かれ、引続き同國農事試験場、開拓総局拓墾處技佐を歴任、満洲國農業開発に活躍、終戦引揚後昭和二

年千葉農場開設と同時に初代場長として建設の鍵を握られ、昭和三十七年技術顧問に就任今日に至ったのであります。この間社内では研究農場の建設整備と飼料作作物品種改良に大きな足跡を残され、社外では昭和三十七年農林大臣から農林水産技術會議委員を委嘱、農林行政特に酪農振興への意見具申、また推されて地元の初代酪農組合長に就任、更には全国各地に亘っての草地造成、自給飼料栽培の講演行脚等、酪農振興、自給飼料増産に多大の業績を残されました。殊に各地の講習会では、あの大きな声で滔々と飼料作物の諸論から栽培各論に至るまで、卓識を叩き、黒板を指し、また生活様式、経営改善の談議に至つては、ゼスチュアも交えて満場を沸かせ、時の経つのもの忘れ名調子で何時間も飽くことを知らず講演をされたもので、生前より既に幾多の逸話多く、正に快男子そのものの風格でありました。また責任感が頗る強く、部下後輩にいつくしみ深く、農場に在つては、繼はぎの当たつたコールテンに印パンツの姿よろしく、除草ダコの出来たゴツイ手で来客に茶をすすめられるなど、今なおその姿が眼前に彷彿といたします。

この度の御逝去には全国の関係方面から数多く惜別と哀悼の言葉が送られて参りました。茲に本誌友各位と深く御冥福祈りたいと存じます。